

「尊厳を奪われるな」愛と自由に生きる③

出エジプト記20章1～17節



神はご自分を「ねたみの神」だと言われます。しかし「ねたみ」が「他人の優れた状況に対する劣等感を伴う心の痛み」であるなら、この日本語訳は相応しくありません。なぜなら神は人間はもちろん他の神々をもライバル視されないからです。むしろ「嫉妬」の意味の方が近いかもしれません。神が偶像崇拜を禁じられるのは、「神の似姿」としてご自分が創造された人間が神の御姿には似ても似つかない偶像の所有とされることに対してどうしても耐えられないからです。

① 偶像をつくる人は、やがて偶像に支配される

“あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。…” 4-5

“彼らの偶像は銀や金。人の手のわざにすぎない。口があっても語れず 目があっても見えない。耳があっても聞こえず 鼻があっても嗅げない。手があってもさわれず 足があっても歩けない。喉があっても声をたてることができない。これを造る者も 信頼する者もみなこれと同じ。” 詩篇115:5-

② 神は、私たちが神の似姿を失うことに耐えられない

“あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。” 5

“神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」”

創世記1:27-

③ 偶像はあなたを救うことはできない

“わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。” 2-3

“わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。” 5-6

<話し合ってみましょう>

- ・ 占いやお守り札などをはじめ、私たち人間の心にある偶像に惹かれる思いはどこから来るのだと思いますか。
- ・ 偶像に対して軽い気持ちでいる私たちと、そんな私たちに対する神の熱い思いのギャップについてどう思いますか。あなたにはこのことで悔い改めるべきことはありますか。